

べつ議会だより つかい

第85号
2018年5月



築50年のキング式牛舎は
今なお現役で使用されている

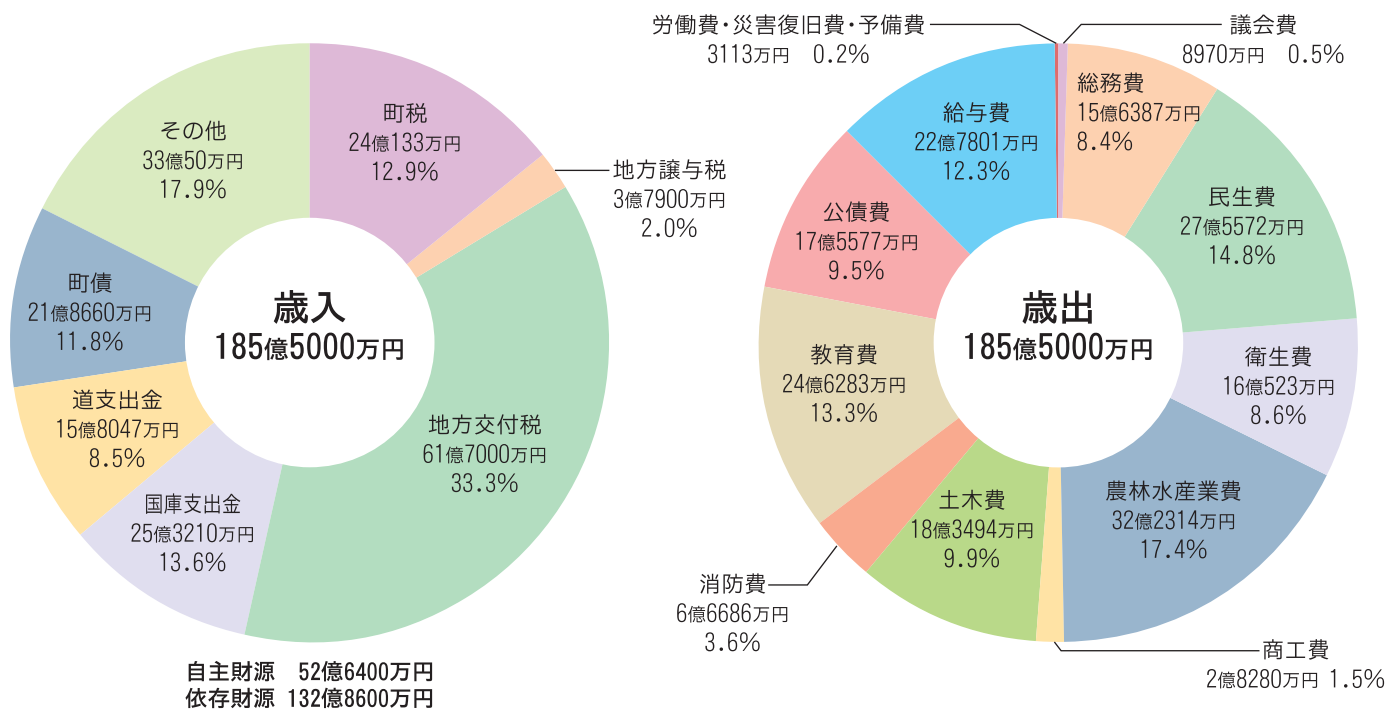
第1回定例会が開催される.....	2
新年度予算の概要	
予算審査の主な内容	
町政のここが聞きたい.....	10
一般質問（中村、外山、瀧川、小椋の4議員）	

シリーズ まちの宝物 牛飼いの歴史を感じるキング式牛舎22



北海道別海町議会

第1回定例会開催される 平成30年度予算決まる



各会計予算総額	280億6761万円
一般会計	185億5000万円
特別会計	53億5480万円
企業会計	41億6281万円

特別会計予算	国民健康保険…… 26億6500万円
	下水道事業………9億2440万円
	介護サービス事業…4億8510万円
	介護保険……… 11億1190万円
	後期高齢者医療……1億6840万円

企業会計予算	病院事業会計…27億 367万円
	水道事業会計…14億5913万円
(企業会計は、収益的支出と資本的支出の合計額です。)	

平成30年度の別海町各会計予算は
全て全会一致で可決されました

平成30年度一般会計予算は、前年度比
8・4%増の185億5千万円の予算と
なっています。

福祉施策の対策の拡大、子育て支援施
策の拡大、寄宿舎の設置などの別海高校
生に対する支援、給付型奨学金制度の
拡充、スクールソーシャルワーカーの本
格的導入、漁業後継者の就業支援事業な
ど、住みよく子育てしやすい別海町に向
けて施策を制度設計してきた町当局の努
力が見受けられます。

また、一次産業を支える自然環境を適
切に維持するため、河川・湖沼水質の調
査などに力を入れ、河畔林整備を含めよ
り積極的に森林を増やして行く姿勢が表
明された点も評価されます。

町税、地方交付税の減が見込まれる中
で、適正な財政状況を維持しつつも、(仮
称)生涯学習センター整備事業の着手、
給食センター、町民体育館の改修など、
文化・スポーツ、食に資する施設に対す
る継続的な予算編成も重視されています。
今後、よりいっそう健全な財政運営に
取り組むことを期待し、本予算案に全会
一致で賛成しました。

しょうがい がくしゅう じっし せつけい ひ べつ かい こう とう がっ こう
生涯学習センター実施設計費・別海高等学校
 きしゆくしゃ にゆうきよ しゃ じよ せい も こ
寄宿舎入居者への助成などを盛り込む

本会議で提出された平成30年度各会計予算案が議員全員による予算審査特別委員会（沓澤昌廣委員長）において3月14日・15日の2日間にわたり、1項目ごとに慎重に審議されました。



地域会館等整備事業

金額 640万円

上風連地域センター、中春別ふれあいセンター、西春別ふれあいセンターの一部改修工事など



建設予定地
(旧Aコープ別海店跡地)

生涯学習センター整備事業

金額 8763万円

平成33年に建設予定の(仮称)生涯学習センターの実施設計費



ウニ種育苗センター改修事業

金額 7483万円

平成8年に建設された施設が老朽化しているため、外壁と屋根などを改修



別海高等学校教育支援事業

金額 2886万円

寄宿施設入居者および設置者助成金、通学費補助、通信衛星授業受講補助など



建設予定地

学校給食センター改築事業

金額 6億3984万円

昭和44年に建設され年間195日前後稼働しているセンター。老朽化のため移転改築



上西春別中学校防音改築事業

金額 4億4592万円

昨年、校舎が完成し8月から使用している。今年度は講堂の改築を行い9月完成

その他の主な事業

町民体育館整備事業

老朽化した内部の改修工事

金額 3億9002万円

介護職員確保対策事業

介護職員初任者研修費補助、奨学資金支給など

金額 307万円

ふるさと応援制度推進事業

ふるさと納税制度にともなう町外寄付者への返礼品送付費用など

金額 8933万円

風蓮湖物揚場整備

物揚場整備の第2期工事。今年度完成

金額 5032万円

漁業後継者就業支援事業

漁業後継者支援として北海道立漁業研修所入所費用の補助

金額 211万円

臨時町道整備事業

別海宮舞町、西春別駅前曙町、尾岱沼岬町の一部町道の整備

金額 4232万円

敬老バス乗車券等給付事業

ハイヤーおよびバス共通利用券給付

金額 1293万円

任意予防接種助成事業

中学生以下の生徒および児童、乳幼児に対するインフルエンザ予防接種助成

金額 506万円

平成30年度 別海町各会計予算審査

予算審査特別委員会の中で行われた主な審査内容をお伝えします。

ふるさと納税について

ふるさと応援寄付金の平成29年度実績と今年度の見込みは。

回答 昨年10月から返礼品の充実とインターネットによる申し込みを業者に委託して開始し、平成29年度は3千300万円の寄付となった。

今年度は委託業者をもう1社増やし、1億5千万円の寄付を見込んでいる。返礼品のラインナップは地元業者も含め委託先と協議していく。

給付型奨学金の周知について

今年から介護福祉士についても給付型奨学金の対象となる。高校生と保護者に対する周知の徹底が必要だと考えるが。

回答 町としても各高校、専門学校、大学に向けて周知を行っており、広報やホームページなどでも情報を発信してい

る。今後もさらに周知徹底していきたい。

森林環境の整備と保全について

公有林はもちろんのこと、私有林も含めて森林を増やしていくという考えはあるのか。

回答 今ある森林を適正に維持していくことが第一に必要であると認識しており、平成30年度に関しては森林面積の増とはならない。

しかし、第7次別海町総合計画の中で、造林については大きな政策の柱の一つとし、河畔林などを中心として新たな植林を実施していく。

生きるカアッププロジェクトについて

生徒数の減少による複式学級の増加など、今の学校体制の中で義務教育9年間を一貫した方針で教育する取り組みを考えているか。

回答 現在、地域と一体となった教育体制を取るコミュニケーションスクールの試行期間であるが、これと連動するかたちで、小中で一貫した教育のあり方についても進めていくことになる。

MR導入に伴う病院増築について

増築に関する基本設計および実施設計を行うこととなっているが。

回答 平成28年度からは手術件数も増えており、毎回、MRのため町外に検査に行ってもらつのも厳しい状況となり、導入に向けて本格的な検討を開始した。

酪農の担い手プロジェクトについて

今年度の事業内容は。

回答 町単独での酪農体験ツアーやフェアの開催を企画している。

また、東京、札幌ふるさと会の協力のもと、酪農家の次男や二男にUターン就農を相談する機会を作る予定だ。新規就農者同士の交流会も開催する予定である。

平成29年度 3月補正予算概要

	補正額	予算総額
一般会計	△ 4億4780万円	170億4200万円
特別会計	△ 1億9480万円	51億9550万円
病院事業会計	△ 1億2710万円	23億9331万円
水道事業会計	△ 4369万円	13億4630万円

支出の部（主な補正）

保健センター管理経費	22万円増額
新規就農者リース支援事業補助金	104万円増額
畜産担い手総合整備型再編整備事業	4783万円増額
福祉牛乳給付事業	300万円減額
高齢者緊急通報システム運営事業	37万円減額
特別養護老人ホーム等利用者負担軽減事業	253万円減額
子ども医療助成事業	151万円減額
地域子ども・子育て支援事業	300万円減額
地域おこし協力隊推進事業	19万円減額
ふるさと応援制度推進事業	1081万円減額
交通安全指導員経費	104万円減額
北方領土展望用ネットワークカメラ設置事業	34万円減額
奨学資金等経費	240万円減額
出産祝金贈答事業	190万円減額
墓地整備事業	99万円減額
未来につなぐ森づくり推進事業	92万円減額
にぎわい商店街創造事業	23万円減額
中小企業担い手育成事業	13万円減額
空き家対策事業	12万円減額
生きる力アッププロジェクト事業	76万円減額
図書館運営経費	333万円減額
町営温水プール整備事業	70万円減額

平成29年度補正予算案が原案とおり可決されました。補正の内容は一般会計のほか各特別会計・病院事業会計・水道事業会計において事業の完了や支出額の確定などによる減額が主なものです。

増額する主なものは、野付・中西別・中春別各小学校と野付中学校の煙突改修工事、畜産担い手総合整備型再編整備事業の償還金です。

補正予算の内容と専決処分および条例改正と意見書の内容についてお伝えします。

平成29年度 一般会計補正予算 4億4780万円の減額を承認



新規就農者リース支援事業補助金

金額 104万円

農場リース円滑化事業等リース料補助の申請者の増（10戸）



特別養護老人ホーム等利用者負担軽減事業

金額 253万円減額

個室化にともなう使用料の増加分の負担を軽減するための補助

意見書

◆根室海峡海域におけるロシア連邦トロール漁船に関する意見書

(全会一致で可決)

提出者 産業建設常任委員長 沓澤 昌廣 議員

ロシア連邦トロール漁船による操業は、沿岸資源に大きな打撃を与えている。このため毎年、別海町・標津町・羅臼町は、地元漁業協同組合と合同で国に対して申し入れを行ってきたが、依然として操業が行われており、漁具被害や水産資源の減少が続いている。

よって国においては、根室海峡海域でのロシア連邦トロール漁船操業の抑制が図られるよう強く要望する。

条例の制定および改正

◆別海町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準等を定める条例の制定

介護保険法の一部が改正され、平成30年4月1日から、居宅介護支援事業者の指定権限が、都道府県から市町村に移譲

されることにともない、これまで都道府県が定めていた条例を市町村に移譲するものです。

条例の制定にあたっては、国が示す基準を参照して、地域の実情や特性を十分考慮し内容を定めています。

福祉医療常任委員会でも慎重に審議され全会一致で可決されました。

◆別海町生乳流通安定対策事業受益者負担金徴収条例の制定

本条例は、酪農家の健全で安定した営農をサポートするため、私道の道路整備、除雪などの手数料徴収に関し会計処理の適正化を図るためのものです。

これまで、生乳の搬出経路を確保するため、私道の路面整地および除雪サービス事業を行ない、手数料を徴収していました。その手数料が、地方自治法の規定する「負担金」に該当するため、今回、より適切な会計処理を行うため、本条例の制定となりました。

産業建設常任委員会でも慎重に審議され全会一致で可決されました。

ものです。

◆職員の育児休業等に関する条例の一部改正

国の基準に合わせ、保育サービスの申し込み後、当面そのサービスの実施が行われない場合、育児休業期間を延長できるように改正するものです。

◆別海町総合計画策定審議会条例の一部改正

5専門部会のうち、3部会(総務部会、福祉医療部会、教育部会)を変更しました。

◆別海町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担等に関する条例の一部改正

国の基準額の変更に伴って改正するものです。一部の利用者の負担額が減額となります。

◆別海町介護保険条例の一部改正

介護保険の第7段階と第8段階の所得金額の範囲が変更されます。

◆別海町介護保険法に基づく指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び

定例会の議案審議と主な内容

運営に係る基準に関する条例の一部改正
国の基準改正によるものです。

◆別海町国民健康保健条例の一部改正
保険運営協議会の名称変更と葬祭費の改正です。

◆別海町農業機械の設置及び管理条例を廃止する条例の制定について

農家の過重労働の軽減と効率的な農業を確保するため、導入した農業機械の管理運営をJA中春別に委託していましたが、各JAが主体となって機械の管理を実施することとなり条例を廃止するものです。

人権擁護委員候補者の推薦

藤原優子さん（中春別）の推薦を決定しました。（再任）

任期は平成30年7月1日から平成33年6月30日までの3年間になります。



藤原 優子 さん

別海町監査委員の選任

任期満了に伴い、杉本義久さん（中標津町・新任）、田村秀男さん（別海町・再任）の選任に同意しました。

杉本さんの任期は平成30年3月13日から平成34年3月12日までの4年間、田村さんの任期は平成30年4月1日から平成34年3月31日までの4年間です。



杉本 義久 さん



田村 秀男 さん

専決処分の報告

工事請負契約の一部（契約金額）を変更

・東富岡地区農道改良工事

・町道中西別上風連線中之川橋外4橋梁補修工事

工事請負契約の締結

内 容	契約金額	事 業 者	工 期
根室中部3号主要幹線改良舗装工事	2億3911万円	高玉建設工業株式会社	平成30年3月17日から11月20日
中西別上風連線改良舗装工事	2億3792万円	高玉建設工業株式会社	平成30年3月17日から11月20日
西春別駅前団地公営住宅改修建築主体工事（4号棟）	7608万円	株式会社佐々木建設工業	平成30年3月20日から12月10日

第1回臨時会（1月22日）

議案番号	件名
議案第1号	平成29年度別海町一般会計補正予算（第5号）
報告第1号	専決処分の報告について（町民体育館外部改修工事）
報告第2号	専決処分の報告について（町道根室中部3号幹線交付金工事（改良））

第1回定例会（3月8日～16日）

議案番号	件名	議案番号	件名
議案第2号	平成30年度別海町一般会計予算	議案第26号	別海町介護保険法に基づく指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に係る基準に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第3号	平成30年度別海町国民健康保険特別会計予算	議案第27号	別海町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について
議案第4号	平成30年度別海町下水道事業特別会計予算	議案第28号	別海町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について
議案第5号	平成30年度別海町介護サービス事業特別会計予算	議案第29号	別海町国民健康保険財政調整基金条例の一部を改正する条例の制定について
議案第6号	平成30年度別海町介護保険特別会計予算	議案第30号	別海町後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第7号	平成30年度別海町後期高齢者医療特別会計予算	議案第31号	別海町老人保健施設設置条例の一部を改正する条例の制定について
議案第8号	平成30年度町立別海病院事業会計予算	議案第32号	別海町国営土地改良事業負担金の徴収に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第9号	平成30年度別海町水道事業会計予算	議案第33号	別海町国営土地改良事業の経費の賦課徴収に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第10号	平成29年度別海町一般会計補正予算（第6号）	議案第34号	別海町集落排水施設設置条例の一部を改正する条例の制定について
議案第11号	平成29年度別海町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）	議案第35号	別海町農業機械の設置及び管理条例を廃止する条例の制定について
議案第12号	平成29年度別海町下水道事業特別会計補正予算（第3号）	議案第36号	工事請負契約の締結について（根室中部3号主要幹線改良舗装工事）
議案第13号	平成29年度別海町介護サービス事業特別会計補正予算（第2号）	議案第37号	工事請負契約の締結について（中西別上風連線改良舗装工事）
議案第14号	平成29年度別海町介護保険特別会計補正予算（第2号）	議案第38号	工事請負契約の締結について（西春別駅前団地公営住宅改修建築主体工事（4号棟））
議案第15号	平成29年度別海町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）	議案第39号	辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更について
議案第16号	平成29年度町立別海病院事業会計補正予算（第2号）	議案第40号	あらたに生じた土地の確認及び町の区域の変更（編入）について
議案第17号	平成29年度別海町水道事業会計補正予算（第2号）	議案第41号	町道の路線認定及び廃止について
議案第18号	別海町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準等を定める条例の制定について	諮問第1号	人権擁護委員候補者の推薦について
議案第19号	別海町生乳流通安定対策事業受益者負担金徴収条例の制定について	同意第1号	別海町監査委員の選任について
議案第20号	特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について	同意第2号	別海町監査委員の選任について
議案第21号	職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	同意第3号	根室町村等公平委員会委員の選任について
議案第22号	別海町総合計画策定審議会条例の一部を改正する条例の制定について	報告第3号	専決処分の報告について（（H28線）東富岡地区農道改良工事）
議案第23号	別海町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	報告第4号	専決処分の報告について（町道中西別上風連線中之川橋外4橋梁補修工事）
議案第24号	別海町介護保険条例の一部を改正する条例の制定について		
議案第25号	別海町介護保険法に基づく指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に係る基準に関する条例の一部を改正する条例の制定について		

以上、全会一致で可決しました。

平成30年度一般会計予算（構成町の負担金）

中標津町外2町葬斎組合

別海町	1986万円
中標津町	4563万円
標津町	780万円

根室北部消防事務組合

別海町	6億3591万円
中標津町	4億7083万円
標津町	2億6501万円
羅臼町	3億0132万円

根室北部廃棄物処理広域連合

別海町	2億5422万円
中標津町	4億7134万円
標津町	1億3667万円
羅臼町	1億1701万円

根室北部廃棄物処理広域連合
根室北部消防事務組合
中標津町外2町葬斎組合

ぎ
かい
ほう
こく
議会報告

（中標津町議事堂 平成30年3月2日開催）

■根室北部消防事務組合報告

平成29年1月から12月までの実績で、

火災発生件数 28件

前年より5件減少

救急車の出動 1938件

前年より45件増加

ドクターヘリの運行

出動件数112件

（すべて4町の件数）

■中標津町外2町葬斎組合の質疑

白樺斎場には3台の台車があり、今後毎年1台ずつ交換していく予定と説明がありました。

215万円と高価であり、維持管理や部品再利用など経費がかからないようにとの要望が出ました。

議会傍聴インタビュー

一般質問の傍聴に訪れた方にお話を伺いました。
建友会（別海町内の建設会社の経営者および後継者で作る会）



近藤 裕幸さん



山下 毅さん



金子 勝さん

広報…議会を傍聴された感想は？

山下…別海町で課題になっていることを身近に知ることができた。その内容をいかに質問していくか、議員の難しさも感じた。

近藤…酪農、子どもの関係の質問や答弁をゆっくり聞いた。子どもの部活では、休む時間も大切だと考えていた。体を休める、勉強時間を作るなど色々意見があると感じた。

金子…質問を聞き、障がい者の車椅子利用に対策があればいいと思った。建設業なども担い手不足、労働者不足であるが、酪農も同じ状況であると感じることができた。

広報…議会だよりで読みたい記事や要望は？

金子…自分たちに関連する身近な記事があればいいと思う。

近藤…選挙年齢も引き下げられた。我が家では、議会だよりを大人が見た後、子どもの目につく所に置くが見ている様子がない。目を通したくなるような誌面作りを望みたい。

全員…写真の多用はとていい。文字ばかりでは読みたくなる。

第1回定例会 一般質問

町政のここが聞きたい

第1回定例会では5日目（3月12日）に4議員が一般質問をしました。各議員の質問項目とその内容を要約して掲載します。（全文は町のホームページに掲載）

- 中村 忠士 議員……………11
 - 1 中小規模を含め多様な形態の経営が共存する酪農村・地域づくりを
 - 2 教職員の勤務時間の改善について
- 外山 浩司 議員……………12
 - 1 中学校部活動の休養日などの考え方および中学校への指導方針は
- 瀧川 榮子 議員……………13
 - 1 子ども議会開催について
 - 2 障がい者が安全に利用できるリフト付きバスの導入を
- 小椋 哲也 議員……………14
 - 1 大地震に対する一次産業の減災と復興対策について具体的な検討をすべき

詳しい議事録は町のホームページに掲載します。

別海町議会

検索

一般質問とは、行政全般について議題とは関係なく議員主導で政策論議できる仕組み。質問内容は事前に通告する必要があり、定例会でのみ行える。持ち時間は一人60分となっている。



中村忠士議員

中小規模を含め多様な形態の経営が
共存する酪農村・地域づくりを

登藤産業振興部長

量的拡大だけでなく、
質の向上や労働力軽減も重要な課題

質問 TPP11と日欧EPAによる道

内農林水産物の生産減少額は最大824億円、うち牛乳乳製品464億円、牛肉159億円という道の試算だが、これは「生産額は減るが生産量は減らない」という政府試算をそのまま踏襲したもので「甘い想定だ」という声もある。町長も政府と同じ考えか。その根拠は何か。

曾根町長

生産量は減らないということについては、なかなか難しい部分がある。生乳でいうと、国産は800万トンを下回っている。そういった中で、牛乳・乳製品がどういう影響を受けるかということ、なかなか試算が難しい。

質問

明確な根拠は示されなかった。「中小規模の家族経営を含め、多様な形態の経営が共存する酪農村こそ、基盤のしっかりした強い地域と言える」と言われてきた。しかし、国の進める農政は、



大忙しの乾草収穫は時間との勝負

規模拡大化、集約化、機械化などで、大量の資金とエネルギーを投入する方向性をとっていることから、多様な形態の経営が共存する地域ができにくくなっているのが現状だ。

近年の町内離農の理由を調べると「後継者問題」が5割で、「将来不安」を合わせるも7割を超える。また、離農農家の大部分が70頭未満の中堅農家だ。

対策として、中小規模の酪農家に焦点を当て、後継者対策をしっかりとる、将来不安を払しょくするということが大事

になってくると思うが。

登藤産業振興部長

非常に重要なことだ。量的拡大のみではなく、質の向上や労働力軽減ということも重要な課題として取り組んでいくべきと認識している。

教職員の勤務時間の改善について

質問

中学校教員の約6割が過労死水準を超えて勤務しているという文科省調査が公表された。町教育委員会として教職員の勤務時間の実態を把握しているか。また、改善にどう取り組んできたか。

伊藤教育長

当町の時間外勤務の実態については全道の傾向と同様ととらえている。調査については教職員の負担にならないよう現場の意見を尊重し検討する。勤務時間改善のため、校務支援システムの試行的導入、実物投影機の配置などを行ってきた。

質問

根本解決には、学級定数、教職員定数の改善が最重要、最短の方策だ。

伊藤教育長

有効な方策だ。今後も加配教員の配置を積極的に働きかける。



外山浩司議員

中学校部活動の休養日などの
考え方および中学校への指導方針は

伊藤教育長
当町の状況を踏まえ、
必要な見直しを検討していく

質問 北海道教育委員会から教職員の働き方改革に関して、部活動指導の負担軽減を盛り込んだアクションプランがだされ部活動の休養日などが示された。当町の部活動への加入率は。

入倉学務課長 全生徒518名中446名が加入で、加入率としては86%である。全校生徒が加入している学校が3校。低い学校は70%の加入率である。

質問 加入率100%の3校は、学校長の方針か。それとも自発的加入か。

根本教育委員会指導参事 学校長の指導方針とともに、保護者が十分に理解をとしての自発的な加入である。

質問 中学校部活動休養日の実態は。

入倉学務課長 全ての学校で週1回以

上設定をしている。毎週1日の休養日が5校、土日を含めた毎週2日の学校が3校。なお、活動時間は1日当たり平日2時間から3時間程度となっている。

質問 部活動休養日の教育委員会の考えおよび中学校への指導方針は。

伊藤教育長 活動については、「学校における働き方改革・北海道アクションプラン」で示され、スポーツ庁が検討している「運動部活動のあり方に関する総合的なガイドライン」を参考に、当町の状況を踏まえ、必要な見直しを検討していく。

具体的には、毎週1日以上活動休養日や平日2時間から3時間程度の適切な活動時間の確実な実施。そして、顧問の複数体制で、指導者の負担をより軽減できるように、交代で指導や安全管理を行うなど、効果的な活用方法を校長会と協議しながら進めていく。

質問 根室管内1市4町で取り組むことができないか。

伊藤教育長 先ほどのアクションプランについては、北海道教育委員会ではチームをつくり取り組むことになっており、全道14管内においても、管内ごとに、教育局、教育委員会が中心となりチームを作り検討していくこととなっている。その中で、1市4町の取り組みが話されていくことになる。



週2日の休養日で管内新人戦優勝を果たした中西別中学校女子バレー部



瀧川 榮子議員

子ども議会開催について

曾根町長

行政、議会を含め子どもたちが知って
もらう良い機会であり取り組んでいく

質問

将来の社会の形成者として資質を高めるため、子ども議会を実施することは有用だと考える。子ども議会開催についての考えは。

伊藤教育長

学びを通して、自分の存在が認められることはもとより、地域に興味や関心を持ち、社会に参加している実感を持つこと、社会的意識や積極性を育むための話し合い活動を充実することは大切だ。

子ども議会は子どもたちにとって、必要な資質、能力を培うために有効な学習

機会ととらえている。

子ども議会を開催することで、社会に開かれた教育課程の一つの方向性を示すモデルになると考えている。

質問

子ども議会は、子どもたちが考え、自分たちの思いが生かせる取り組みにしてほしい。

親でも教師でもない、行政の中の大人たちが協力できることもあるのではないか。

曾根町長

子ども議会は、教育部門の課題というだけではなく、行政全般、議会も含め、今の町政執行機関、議会がどんなことをしているのか、子どもたちに知ってもらう良い機会であると考えている。ぜひ取り組んでいきたい。

質問

町政施行30周年記念行事として子ども議会が開かれ、即時行政に活かす内容もありその成果を認めた。その一方、

学力向上対策や、教育現場への新たな負担など、問題解決が必要で検討課題とされ、その後開かれていない。

問題解決はどのようにするか、また学校側の理解は得られているか。

伊藤教育長

教育現場への新たな負担は「教職員の働き方改革」の視点からも避けなければならない。

子ども議会を開催するにあたり、既存の学習機会を活用することを検討している。可能な限り学校の負担にならないようにしたいと考えている。

開催については、校長、教頭合同会議で説明しおおむね理解を得ている。

障がい者が安全に利用できるリフト付きバスの導入を

質問

車椅子利用の障がい者は大型バスに乗るのは大変困難である。リフト付き大型バスの導入についての考えは。

竹中総務部長

現時点では導入の予定はないが、民間の導入状況や福祉バス使用の範囲で借り上げによる効率性や時代の推移、状況の変化に応じて今後検討する場面も出ると思う。



平成13年から15年に開かれた子ども議会は率直な意見が出された



小椋哲也議員

大地震に対する一次産業の減災と復興対策について具体的な検討をすべき

登藤産業振興部長
災害対策・対応は複雑に絡んだ問題があり、単独自治体としては取り組みが難しい

質問 平成30年2月9日に地震調査研

究推進本部地震調査委員会から、地震発生確率について発表が行われた。

根室地区は今後30年で、M7・8からM8・5クラスの地震が発生する確率が全国で最も高い80%となった。これは東日本大震災のM9にはおよばないまでも、スマトラ島沖大地震のM8・6に匹敵する規模だ。

2015年12月定例会で、当町の災害対策について一般質問を行なったところ、酪農の防災対策については、農協などとの連携を強化し、協議を進めていく必要があると回答があった。その後の経過は。

登藤産業振興部長

営農用水の確保に

ついては、断水時の応急対応の経験があるため、対応できると考えている。また、牛舎新築の際はポンプ付き小型受水槽を設置するよう要請しており、電源が確保されれば使用可能となる。

しかし、電源の確保については対策が進んでいない。町内各農協とは、機会があるごとに災害対応について話し合っているが、本格的な協議は行われていない状況である。

質問 農家、農協、行政を含めて横断的に連携し、災害対策について具体的に検討しアクションプランを作成するような場が必要ではないか。

登藤産業振興部長 現在は行っていないが、現状に鑑み必要性は感じている。

質問

これまでの生命を守るための災害対策に加えて、当町の基幹を支える酪農と漁業、一次産業を守るための具体的な現実的な災害対策を行う仕組みが必要ではないか。

登藤産業振興部長

国の防災基本計画

北海道地域防災計画、そして別海町地域防災計画では、国、公共機関、地方公共団体、事業者および住民それぞれの相互協力が地域産業を守る重要な仕組みであるとされている。引き続き防災、減災対策に努めていく。

質問

個別の防災対策や計画などは酪農・水産も進んでいるとは思いますが、酪農家や漁師などの現場も巻き込んで中身を深く理解し、取り組めるかが重要だ。

防災対策を点ではなく面として横断的に検討し、内容を広報していく必要があるのでは。

登藤産業振興部長

単独自治体として

取り組みが難しい点もあるため、長期的展望で考察する必要がある。ご理解いただきたい。



設備や手法の変化に対応した災害対策が常に求められる（ロボット搾乳の機械）



特集 議会活性化の取り組み

別海町議会では、平成28年度から議会活性化のための議会モニター制度が始まり、今年度で3年目を迎えました。

議会モニター設置の目的は、町民からの要望・提言を広く取り入れ、議会も積極的に町民の知恵を借りることで、議会の運営を活性化させ、町議会のチェック機能や政策形成能力の向上を図ることとしています。

平成28年度は7名、平成29年度は8名の方がモニターとして参加してくださいました。議会開催時にはほとんど欠かすことなく傍聴してくださる方もおられます。

傍聴した議会の感想や意見などを寄せていただくほか、年1回の「議会モニター意見交換会」を開き、議会に対して直接ご意見をうかがっています。

昨年開いた1回目の意見交換会では、議員の学校行事への参加要望や、議会だ

よりをさらに読みやすくするための誌面づくりへの提言などを聞くことができました。

また、地域活動に関するご意見など議会の中だけではなく、地域にも目を向けた内容の意見交換会となりました。

今年3月22日に開かれた2回目となる意見交換会でもたくさんのご指摘、ご意見をいただきました。(16頁参照)

議会の傍聴はモニターの方だけでなく、さまざまな団体や個人の参加も増え、傍聴後の感想やご意見もいただいています。今後もたくさんの方に参加していただき、議会を活性化させていく必要があると考えています。

議会として議員として、厳しいご指摘や励ましの声をしっかりと反映できるよう、緊張感のある、そして分かりやすい議会活動のあり方を探りながら前に進んでいきたいと考えています。

対象

- ・町内にお住みの方
- ・町内で活動している各種団体
- ・自治会(町内会)など

申込方法

- ・申込者氏名もしくは団体名
- ・住所および連絡先
- ・意見交換したい内容
- ・開催希望日時、会場
- ・上記内容を事務局まで

議会や町政に関すること
その他いろいろな話題で
意見交換をしましょう！



制度のお知らせ 別海町議会 意見交換会

お寄せいただいたご意見は、概要を議会だよりに掲載させていただきます。また、議会運営および政策立案、調査研究へと活用します。

問合せ&申し込み：別海町議会事務局 ☎ 0153-75-2111

議会モニターとの意見交換会

平成29年度 議会モニターとの意見交換会を実施

平成30年3月22日 別海町議会第1委員会室

平成28年度より開始された議会モニター制度ですが、2年目となる平成29年度の議会モニターと意見交換会を実施しました。概要を以下に掲載します。



議会モニター活動1年間の総括として意見交換会を実施した

■一般質問の活性化が必要

他の町村と比較しても一般質問を行う議員の数が少ない。また、委員長になると一般質問を行わないなど、独自の慣例も必要ではないか。

回答 委員会ですら所管する範囲に関しては、委員会の中で十分な議論を行うことが前提であるため、委員長が一般質問として議論を行う場合が少ないのも事実である。しかし、町政の全体の姿勢を問う意味での一般質問など、今後力を入れていきたい。

一般質問は、外部への公開の意味も含めて非常に重要であるが、腰を据えた議論の中心は委員会活動が中心となっている。委員会での議論を「見える化」するよう広報活動にも力を入れたい。

■パブリックコメントの活用を

行政が各種計画のパブリックコメントを実施した結果、実際に何が変わったか見えにくい。町民の生活に近い話題が多いので、議員も一般質問で取り上げるなど、議論の過程を見えやすくしてほしい。

回答 議論の過程を議会だよりを活用して広報することに加え、意見交換会な

ど、議会と町民の新しいコミュニケーションの方法を活用して広聴活動によりいっそう取り組んでいきたい。

■別海町議会の議員報酬

当町の議員報酬は、根拠管内で市を除く町村で最も高い金額となっている。これについてどう考えるか。

回答 議員のなり手不足への対策として、議員定数を22名から16名に減らし報酬を現在の金額に引き上げる取り組みを行ってきた。

議員の活動日数は増える傾向にあり、議員外の仕事は大きな制限を受けてしまいうため、特に若い世代が活発な議員活動を行うためには現在の報酬も十分だとは考えていない。



平成29年度のモニターで意見交換会に参加した4名

中西別地区連合会と意見交換会

中西別地区連合会と意見交換会を実施

平成30年2月9日 中西別ふれあいセンター

中西別地区連合会より申し込みがあり、はじめての意見交換会を実施しました。意見交換の概要を以下に掲載します。



参加者は14名、議員10名の合計24名で開催された

■別海の価値とは

なぜこの地域で酪農が営まれているのか。なにもなかった原野を切り拓き、こ別海で牛を飼う、という開拓者の精神、価値観を今の時代にもう一度見つめなおし、再定義する必要があるのではないか。その価値が当町の魅力となるのでは。

回答 近年、酪農を取り巻く環境は好条件であるが、離農率は常に2〜3%となっている。就労環境の整備に加えて、事業継承のあり方なども考える必要がある。なにより、自らの生産物に対する誇りを持って酪農経営をすることができる環境整備が大切である。

■介護現場の現状は

高齢化が進む中で、介護現場の過酷な状況が問題になっている。当町ではどのような状況なのか。

回答 当町は介護サービスの体制は非常に充実している反面、人材の確保で苦労をしている。

行政も、新たに給付型奨学資金に介護職を追加したり、介護資格取得の支援をするなど、先進的な取り組みも行い、力を入れている。

制度の周知にみなさんのお力も貸していただきたい。

■将来の公共交通機関は

今後10年20年先を考えたときに、買い物や公共施設の利用などの移動で、生活の足に不安を感じる。気軽に利便性の高い公共交通機関を確保できないか。

回答 現在、公共交通機関を利用できないエリアを対象に、デマンド交通の試験運用が行われている。事前申し込みをする乗り合いのハイヤーが迎えにくるというもので、これが交通弱者の利便性向上につながると期待している。

その他、多数のご意見を交換させていただきました。いただいたご意見は、早速3月定例会の中の質問で活かされるなど、具体的な取り組みとして現れています。



穏やかな雰囲気の中、ざっくばらんな意見交換がされた

総務文教常任委員会

担当所管 総務部・教育委員会など

委員長	小林 敏之
副委員長	森本 一夫
委員	西原 浩
委員	松壽 孝雄
委員	小椋 哲也

2月7日に所管事務調査を実施しましたので概要を報告いたします。

まちづくり構想の策定について

(仮称)生涯学習センターについて、既存施設である、ぷらと、マルチメディア館とあわせ3つの施設を連携した活用を行う方向で検討されています。

また、子供用トイレの配置やイベントスペースの確保、連携施設との移動ルートの確保など、住民からの意見を取り入れた実施計画が作成されています。

パブリックコメントを実施したのち、年度内に実施計画が策定されます。

(パブリックコメントは3月14日に終了)

デマンド交通について

昨年から、美原・豊原、走古丹地区を中心に試験運用が開始されています。当町は地域的な特性もあり、デマンド交通

に興味を持っている住民が多いため、本格運用に向けて周知に十分な力を入れるよう意見を行いました。

スポーツセンターの指定管理について

スポーツセンターの指定管理状況について報告がありました。専門的なスポーツのよりいっそうの発展に加えて、誰もができる簡易なスポーツの普及を促進していきたいとの方向性が示されました。施設の管理運営については、物品など



外装の改修を終え、今年には内装の改修が行われる

のインターネット通販での購入が目立っているため、町内業者への発注機会に配慮するよう指摘がなされています。

また、事業の効率的な取捨選択を実施し、新たな事業にも取り組むよう指導が行われているようです。

委員からは自主事業が未開催である点について質問しました。委託事業についても参加者が集まらない状況であり、自主事業を企画しても人が集まらずに開催にいたっていないとのことで、今後は町民のニーズを把握し有効な事業を企画したいとの報告がありました。

コミュニティスクールについて

平成28年度に上春別から開始されたコミュニティスクールの取り組みですが、昨年度は野付、中西別、上西春別がスタートし、平成30年度から上風連、中央、中春別、西春別でも運用が開始されます。

学校と地域住民が力を合わせて、よりよい学校の運営を目指し「地域とともにある学校」を通してまちづくりを進める仕組みです。

学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色のある学校づくりを進めていくと報告がありました。

常任委員会の活動報告

福祉医療常任委員会

担当所管 福祉部・別海病院など

委員長	戸田 憲悦
副委員長	今西 和雄
委員	中村 忠士
委員	木嶋 悦寛
委員	大内 省吾

閉会中の所管事務調査のうち、2月5日に左記4件について調査しました。

第5期障がい福祉計画について

平成29年度で第4期計画が終了することから、進捗状況の分析、評価を行い、さらに整理・検証し、国の基本指針や障がい者制度改革を踏まえ「第5期障がい福祉計画」、「第1期障がい児童福祉計画」が策定されました。計画を推進するにあたり、専門職の確保が重要であり、施設や制度の整備と合わせて取り組んで行くとの説明がありました。

別海町高齢者保健福祉計画及び第7期介護保険事業計画について

平成27年に策定した前計画を見直し、「地域包括ケアシステム」のさらなる深化・推進を目指し方向性を示すとともに、介護保険事業の安定的運営を図るために

策定されました。

町からは、今まで同様、東部・中央・西部の地域間バランスの均衡は保ち、取り組んでいくとの説明がありました。限りある社会資源を効率的・効果的に活用し、介護保険事業の安定運営を図るため、当委員会でもしっかり議論していきます。

国民健康保険の制度改正について

いよいよ4月から新しい制度の基でスタートします。道は、国保の安定的財政運営や効率的な事業運営を行う中心的な役割を担います。町は、資格管理・保険料率の決定・賦課・徴収・保険事業などのきめ細かな役割を担います。

当委員会は、国保をはじめとする医療保険制度の財政安定化・負担の公平化・医療費適正化などの措置が講じられることから、推移を注視していきます。

町立別海病院の運営などについて

町内のインフルエンザの発生状況は、予防接種の成果もあり、急激な発生にはいたっていないとの報告がありました。小児科医師不在の件につきましては、一日も早い通常診療再開に向け奔走しているとの報告がありました。

その後、3月定例会の冒頭で北海道立子ども総合医療・療育センターの循環器病センター長の横澤正人医師が本年5月から着任します。

安定的な診療体制が確保され、6月からはリスクの少ない、経産婦を対象に分娩も再開されると報告がありました。



今まで同様きめこまかな窓口対応を望む

産業建設常任委員会

担当所管 産業振興部・建設水道部など

委員長 杏澤 昌廣
副委員長 渡邊 政吉
委員 佐藤 初雄
委員 瀧川 榮子
委員 外山 浩司

別海町における体験型観光について

2月5日に当町の体験型観光について産業振興部から説明を受けました。

当町の体験型観光は、野付半島を中心に人気が高まっており、水深が浅い野付湾は厳冬期に一面凍結するため凍った海の上を歩く「トドワラ・氷平線ウォークツアー」や氷上で遠近法を利用した「トリック写真」などが話題になっています。どこまでも続く氷の上は、南米ポリビアのアンデス山脈の高原に広がる世界最大の「ウユニ塩湖」のようだと言われ、ツアー参加者には評判のようです。

また、厳冬期に見られ「幻の現象」と言われている「四角い太陽」も人気の観光スポットです。

最近では、インターネットによる発信や口コミによって、国内をはじめ国外からの観光客も増え約12万6000人（前年度より約1万人増）が野付半島を訪れています。

別海町で提供されている体験メニュー

体験型観光	体験メニュー
野付半島活用ガイドツアー	野付半島ひとまわりコース、バードウォッチングなど
アウトドア体験	野付半島野鳥観察舎、フットパスコースなど
観光船（尾岱沼漁港発）	トドワラ往復コース、国後コースなど
酪農体験（農家民泊）	子牛授乳体験、馬車体験など
その他	潮干狩り、ポンヌクル森スノーシューツアーなど

体験観光における課題

野付半島ネイチャーセンターでは、冬期間水道が止まり、営業などの一部制限を受けます。

また、交通手段の利便性の向上、宿泊施設の不足などが挙げられます。

広域的な観光の推進

根室管内や道東地域といった広域的観光を一層推進する必要があります。

高校生の修学旅行誘致を進めていくことも重要です。

委員会では、当町の体験型観光メニューが1年間を通してさまざまあることから、さらなる推進に向けて協議を行っていきます。



手のひらに軽々と大人を乗せることができるトリックアート写真

平昌五輪 応援ツアー報告

(2月17日～20日 韓国江陵)

平昌冬季オリンピック・パラリンピック大会、スピードスケート女子日本代表の別海町出身「郷亜里砂選手」を応援するため、2月17日から20日の日程で韓国に行ってきました。

オリンピック10日目の18日にスピードスケート女子500mが行われました。郷選手が世界のトップで戦うための武器は、巧みなカーブワークで、高速リンクでも怖がらずにぐいぐいと曲がっていく技術の高さは、オリンピック会場でも話題となりました。



8位入賞後の郷亜里砂選手と応援団で喜びを分かちあう

レースは、韓国代表の李相花(バンクーバー・ソチ五輪2大会金メダル)と同道で、会場を埋め尽くす満員の観衆が大声援を送るといふ独特の雰囲気の中で行われました。結果は37秒67で8位入賞という見事なレースでした。

レース後、郷選手は「支えてくれた人への感謝をこめて滑った」とコメントしていました。

別海町民、特にスケートに打ち込む子どもたちに大きな夢と希望を与えてくれました。本当にありがとうございました。

(文責 松原議長)

平成29年度

釧根林活連絡会研修会

(2月13日 釧路工業技術センター)

最初に、根室振興局産業部振興課の土岐課長より「北海道森林のあゆみ」について講演をいただきました。

北海道の森林は、明治時代に、御料林(皇室の財産)として編入され、明治後半に北海道の所有となり農地開発のため森林の伐採がスタートしました。

その後、天然林から人工林への転換を進め道産木材の自給率の向上を進めてきたそうです。



林業の歴史・最新技術を学ぶ

平成14年に全国に先駆け「北海道森林条例」を制定し、森林づくりの基本理念を定め、保全に努めているそうです。

次に国立研究開発法人森林総合研究所北海道支所の佐々木研究専門員から「北欧の最新林業機械技術と釧根地区への適応」の講演をいただきました。

北欧では、伐採・集材の95パーセント以上の作業で、1丁化されたシステム機械を使用し、低コストで安全に作業されています。

それにより、作業者は重労働から解放され快適なキャビンの中で操作し成果を上げているそうです。

当町でも機械化が進んでいますが、今年度4月から別海町森林整備計画が変更になりました。「土地・水・森」の3資源の公共性を十分認識して合理的に利用を図る必要があります。

(文責 外山議員)

牛飼いの歴史を感じるキング式牛舎

いでほくじょう いでこういちろう
井出牧場 井出功一郎さん



当時のままの古い木製梯子を登ると、そこには、がらんとしたような大きな空間が広がっていた。特徴的な形状の屋根を支える柱が整然と並ぶ様子は、独特の繊細な美しさを感じさせる。

いわゆるキング式と呼ばれる牛舎は、パイロットファームの後期頃から用いられ、タワーサイロとあわせて、別海町の酪農原風景の一つといえるのではないだろうか。

牧草ロールラップが主流になるまでは、乾燥させた牧草を四角くまとめた「コンパクトボール」を、長い柄のフォークで牛舎2階に投げ入れ、冬の間は牛が食べる飼料を保管していた。ギャンブルル屋根と呼ばれる独特の形状は、牧草を効率的にたくさん保管するためのものだ。

今回取材に訪れた井出牧場のキング式牛舎は、牧場主の井出功一郎さんが24歳の時に建築したもので、築50年を経過した今も現役で使用されている。

今は搾乳を辞めて和牛を育てているため、牛が自由に歩き回れるスペースを持ったフリーストール形式の牛舎に改造して大切に使っている。

現在、この牛舎は屋根など外装の改修工事を行っており、「築50年の牛舎だけど、まだ50年は使ってもらいで直しているよ」と井出さんは笑いながら語った。娘さん夫婦が戻ってきて後を継ぎ、新しく大きい牛舎も建っているが、キング式牛舎は井出牧場の顔として、いつまでも活躍していくことだろう。

(取材・文責 小椋哲也 委員)

編集後記

「夏もちかづく八十八夜♪…」
節分の2月3日から八十八日目、
5月2日が八十八夜で暦のうえで
は立夏です。

木・草花などが芽吹き始め、まさに青風の息吹が満ち溢れる季節になり、その象徴とも言える「桜」の開花が待たれます。

高知県では、3月の彼岸にはもう満開で、桜前線の日本列島縦断がスタートしました。

日本各地には、多くの桜の名木・名所があり、私たちの心を癒やし豊かにしてくれます。

我が町にも、文化財指定の「試作場の桜」や野付小学校の「100年千鳥桜」、西春別の「桜並木ロード」などがあり、人々の桜に対する思い入れが伝わってきます。

今年秋に「奥行日旧駅通」の改築が終わり町の名所の一つになります。

ぜひ、旧駅通周辺を整備し、一昔前のように桜並木を名所に加えてほしいですね。

(広報・広聴常任委員会)

委員長 今西 和雄

ちゃんと知りたい自分の体 `特定検診、受けて延ばそう健康寿命!!